

東京に平和祈念館（仮称）を



平和と人権への思いを新たに

パク キョン ナム
朴 慶 南

この五月、オバマ大統領が、現職の米大統領として、被爆地広島をはじめ訪れました。実に七十一年もの歳月を費やした、歴史的な一歩と言えます。

原爆資料館に足を踏み入れたオバマ大統領。あまりにも短い時間でしたが、被災した展示物を間近に目にしたことで、原爆による被害の凄まじさと、戦争のおごたらしさを、より深く実感することができたのではないのでしょうか。

かつての戦争を風化させないためには、無数の惨禍を語り継ぎ、戦争の実相を伝えていくことが何より大切で必要なことだと思えます。そこから私たちが貴重な教訓を汲みとることによって、新たな戦争を防ぎ、平和への道すじを作ることができます。

「東京都平和祈念館」の建設が待たれる所以であり、その実現に向かって力を合わせていきたいと、あらためて強く思うのです。

広島・長崎での原爆投下、東京大空襲、沖繩の地上戦では、多くの尊い命が奪われました。戦争の終結が引き延ばされたがゆえの犠牲です。

どうして日本は無謀な侵略戦争を押し進めたのか、終結が遅れた理由は何なのか、責任は一体どこにだれにあるのか、決して見過ごすわけにはいきません。

それとともに、被害だけでなく、加害に対しても目を向けてほしいと切に思います。広島のパーク・キョンナム爆者慰霊碑があります。一九七〇年に在日韓国人たちが中心となり建立されたのですが、以前は川の橋詰に置かれていました。

原爆投下時、広島市内には、徴用などで約十万人もの朝鮮人がいました。その内、五万人が被爆し、約三万人が死亡したといわれています。被爆の被害は同じでも、植民地支配という二重の被害が朝鮮人にはありました。

朝鮮人被爆者のみならず、日本軍の「慰安婦」とされたハルモニ（おばあさん）や、サハリンに徴用され、そのまま置き去りにされた朝鮮人の苦難の数々にふれるたび、戦争や抑圧、差別を許してはいけないと、平和と人権への思い

を新たにします。

私たちがともに平和への道すじをめざしている中、安倍政権は、それと真逆の戦争への道に突き進もうとしています。私に選挙権のないのが残念ですが、まずはこの参議院選挙で安倍政権の暴走を何としても止めましょう。

いま、平和を求める声が大きいうねりとなっているのを感じます。そんな声をあげているお一人おひとりのみなさん（この会報を手に行っているみなさん）に、私の新刊のタイトルでもあたる言葉を、心を込めてお伝えさせていただきます。「あなたが希望です」と。

朴慶南（パク・キョンナム）さんのプロフィール

作家、エッセイスト

1950年鳥取県生まれ。

命（人権）が大切にされる社会をめざし、日本と朝鮮半島の懸け橋に、そして世界中から戦争がなくなるようにという願いを原動力に作家として執筆、講演活動を広く行っている。新著に「あなたが希望です」などがあります。

発行 「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会
〒102-0084 東京都千代田区二番町12-1エデュカス東京
東京総合教育センター気付 FAX03-5927-1487

第14回語り継ぐ東京大空襲 清瀬の戦争遺跡を歩く

「東京都平和祈念館(仮称)」建設をすすめる会は、5月29日(日)、「第14回語り継ぐ東京大空襲 清瀬の戦争遺跡を歩く」を行いました。

午前9時半に西武池袋線清瀬駅改札口にあつまった23人は、松山市民センターに移動し、案内者の定信夫さんから清瀬の戦争の概要の説明を受けたうえで、フィールドワークに入りました。

戦時中3月10日の東京大空襲で負傷した人々が次つぎに担ぎ込まれた清瀬病院(現在は跡地が中央公園とされている。右の写真は跡地であることをしめした石碑)(トーク集会の項を参照)。



そのなかに建立されている

した説明板が埋め込まれていません。



【写真上】左から3人目で説明している人が定 信夫さん

当日の天候は晴れで高い気温の中でしたが、体調が余りよくないという定さん、杖を突きながら各所で熱のこもった説明をしながら歩き通しました。

このフィールドワークでは、

「平和の塔」(市内に在住の彫刻家で名誉市民の澄川喜一氏の制作)。このモニュメントは、

住職の森原さんは、「これらの人たちの資料は戦後、警察によって焼却処分にされたために、まったく身寄りが分からなくなった」と話していました。

一行は、さらに東村山市秋津

市民の平和への願いを込め、遺族会や市民から寄せられた寄付を基に建立されたもの。

次いでこの中央公園のやや北西部にある圓福寺へ。



【写真上】圓福寺無縁供養塔の前で森原住職さん説明を聞く参加者たち



【写真上】中央公園に建立されている平和の塔を囲む参加者

このお寺の墓地には、無縁供養塔がある。3月10日の東京下町地域への大空襲で被災した人々のなかで治療も甲斐なく亡くなった33体の遺体がここに埋葬されている。その供養塔の側面には「戦争の傷跡を知らないあなたたちへ」と題

町1-7の平和観音像まで足を運びました。

ここは、1945年4月2日、空襲にやってきたアメリカのB29爆撃機が墜落し、搭乗員11名が死亡したところです。戦後1960年、この土地に住んでいた権次郎さん、小俣権太郎さん親子が、亡くなったアメリカ軍兵士の冥福と恒久の平和を念願して、平和観音像を建立したものです。



【写真上】平和観音像のお話をする小俣さん兄弟

この日は、小俣権太郎さんと光明さんのご兄弟が一行を迎え、説明をしてくれました。

お二人は「B29が落ちた時はものすごい音と火柱がたち大きな穴があいた」と語っていました。

このあと一行は秋津駅から電車で清瀬に戻り、駅の南側のカトリック教会。ここは戦時中通信施設があったところだとの説明を受け、午後のトーク会場の松山市民センターに向かいました。



トーク集会会場

【写真上】トーク集会で清瀬市の平和行政を報告する寺川知子さん

午後は1時半過ぎから、松山市民センターで、日中友好協会の平山百子さんの司会のもとでトーク集会が行われました。

このトーク集会では、「戦時

下の清瀬」、
「清瀬の平和行政について」、
「東京都平和祈念館（仮称）」
建設をすすめる
会からの訴えな
どが行われました。

「戦時下の清瀬」

定 信夫さんが、概ねつぎのような報告をしました。

◆清瀬の戦争犠牲者

清瀬市史には、日中戦争から敗戦までの戦死者は177人。空襲による犠牲者16人の住所・氏名の一覧表がある。そのほかに清瀬病院で患者2人が爆死している。住民以外に外来者1人が爆死しており、計19人が犠牲になっている。

◆1944年7月以降、学童疎開

青山国民学校の学童79人が

三つの寺に分散して集団生活。

◇円通寺（下宿）6年生男子 18人。

◇長命寺（下清戸）3年生女子 27人。

◇全龍寺（中清戸）3年男子 34人。

◆東京大空襲と清瀬
東京大空襲の約1

週間後、都心の病院から清瀬へ、火傷患者が百数十名移送されてくる。清瀬病院に入院・治療。医薬品不足のため、多数が死亡（破傷風など）。無縁犠牲者33体を圓福寺に埋葬。

◆清瀬病院の部看護婦さんの日記から

*3月15日 午後3時ころから、トラックで、非常口から搬入 50人余り 全部火傷

*3月17日 午後より約60人収容 午後3時頃～7時治療

*3月18日 ひどい風、砂ほこりの中を 罹災者運搬で大変 約70人19病棟へ入院 毛布が来たので助かった

◆1945年4月2日清瀬空襲
1945年4月2日早暁、B29爆撃機が空襲、犠牲者19人。

*下宿付近で 住民3人死亡（女性と子ども）

*中清戸付近で 住民13人死亡、他に外来者1名

*清瀬病院で 患者2名死亡 看護婦1名負傷 病棟の一部が破壊

*清瀬病院の被弾後、東村山市秋津町にこのB29が墜落

◆ポツダム宣言をいち早く傍受
1945年6月から、初年兵（20人余り）が、清瀬で通信兵として訓練を受ける。そしてポツダム宣言をいち早く傍受。

（西川美和さんの「その日東京駅5時25分発」より）

清瀬の平和行政について

寺川知子さんが概ねつぎのような報告をしました。

◆平和事業

清瀬市では1982年9月、市議会で非核清瀬市宣言をしたことをうけて、「平和祈念展」や「ピース・エンジェルズ（児童・生徒広島派遣）」などの平和事業を行ってきました。2006年度からは、「平和祈念展」を市民と市が一緒に企画・開催するため、公募による清瀬市平

和祈念展等実行委員会が設置され、「平和祈念フェスタin清瀬」を開催してきています。また、懸垂幕を掲出するなどを通して、戦争の悲惨さ、平和の大切さ、人命の尊さを訴えてきています。

◆平和の塔の設置

前頁参照

◆非核平和宣言都市塔の設置

現在、市内5カ所（中央公園、下宿地域市民センター、けやき通り、志木街道、小金井街道）に設置。

◆平和首長会議への加盟

2009年3月2日、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現をめざす「平和首長会議」に加盟。

◆ピース・エンジェルズ（児童・生徒広島派遣）事業

1995年から市内に居住する小学5年生から中学3年生までの児童・生徒を市の代表として被爆地・広島に派遣している。

「東京都平和祈念館（仮称）」建設に向けて

「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会の世話人の一人である柴田桂馬さんが概ね次のように訴えました。

◆「東京都平和祈念館（仮称）」建設は都民の切実な要求

1973年3月10日、早乙女勝元さんや松浦総三さん、橋本代志子さんなど「東京大空襲を記録する会」が10年に及ぶ努力と美濃部都政の支援をうけて、共同して「東京大空襲・戦災誌」を発行しました。そして1979年2月26日、著名な文化人12氏（注1）が都知事立候補者に「空襲・戦災記念館」（仮名）を、東京に設置す

ることでの公開質問書”を発表しました。ここに現在の「東京都平和祈念館（仮称）」建設運動の原点があると思います。

（注1）12氏＝永六輔、北杜夫、沢村貞子、杉村春子、高木東六、林家正蔵、堀田善衛、吉村昭、吉行淳之介、松浦総三、一色次郎、早乙女勝元

「東京大空襲・戦災誌」（全5巻）には、東京大空襲に関した多くの都民の体験記、多くの資料が収録され、東京空襲の全体像がつまびらかにされました。

こうしたことが一つの契機になって東京に「平和資料館」建設の世論と運動がひろがっていききました。

そのもとで、鈴木俊一都知事（当時）と都議会は、1990年7月、「東京都平和の日」条例を公布・施行、この「平和の日」の行事を検討する企画検討委員会の協議を通じて、「東京都平和記念館基本構想懇談会」が設置され、1993年6月には都知事にこの懇談会の報告が提出されるという経過を辿りました。

この懇談会は、元文部大臣の永井道夫さん（座長）、海老名香葉子さんなど有識者や自民党、社会党、公明党、日本共産党、民社党など当時の都議会のすべての会派の代表で構成されました。

この報告では、「我が国は、先の大戦においてアジア・太平洋の人々などに多大な被害をもたらすとともに、自らも多くの犠牲を払い、身をもって戦争の悲惨さと平和の尊さを経験しました」と述べたうえで、新しい平和記念館は、まず第一に、

「戦争の惨禍を語り継ぎ、都民一人ひとりが平和の大切さを確認する拠点として設置されることが期待される。」第二に、都民の平和への願いを世界に向けて発信する拠点、つまり東京の平和のシンボルとして設置されることが期待される」と意義づけしています。

◆「東京都平和祈念館（仮称）」建設つぶしの逆流

1993年6月には「東京都平和記念館基本構想懇談会」から鈴木俊一都知事に報告が提出され、1995年3月10日には「東京都民平和アピール」が発表され、1995年8月15日には村山首相談話が発表されるなど、日本の政府と軍部が犯した侵略戦争への反省・批判のひろがり、1997年7月6日の都議選では、日本共産党が躍進し、26議席を得て自民党に次いで都議会第2党となる事態がうまれました。

こうしたなかで、かつての戦争で「日本が戦ったのはアジア各国の人たち、アジア民族の人たちではなくて、そこに300年、400年と植民地支配していた国と戦ったんですね。ですから、それぞれ当時の元首、あるいは大統領や首相になった人たちも日本に対する感謝の言葉を述べている人がたくさんいます」（2012年2月17日都議会文教委員会での古賀俊昭自民党都議）などと侵略戦争を肯定・美化する主張を繰り返し、この歴史観の違いを「解除して（東京都平和祈念館）建設に着手するという環境ではとてもない」として「東京都平和祈念館（仮称）」建設に反対・妨害す

る姿勢を露骨にしているありさまです。

◆東京都政の背信

同時に1999年4月以降、都政は石原都政、猪瀬都政、舛添都政と経過してきていますが、東京都はこの間、「東京都平和祈念館（仮称）」に係る問題について次の姿勢でのぞんできました。

（1）「東京都平和祈念館（仮称）」建設に係る予算を凍結。

（2）これまで「東京都平和の日」行事については、都議会のすべての会派の代表や有識者の参加を得て企画検討委員会で練り上げて実施されてきましたが、石原都政以降この企画検討委員会は全く開催されず、都庁内のまさに「密室」で企画・実施してきている。

（3）「東京都平和祈念館（仮称）」建設を前提に、東京都の呼びかけで都民から集めた5000点に及ぶ貴重な空襲・戦争被害資料は、ごく一部の資料に限られた期間・場所に展示をするだけで、ほとんど倉庫に入れたままになっている。このことについて都民には全く説明もしていないという無責任な状態が10数年もつづいている。

（4）1998年3月、1999年3月の都議会本会議で「平和祈念館の建設に当たっては、展示内容等について、都議会の合意を得たうえで実施すること」との付帯決議があるにもかかわらず、東京都は「この付帯決議を重く受け止める」といいながら、これまでの18年間都議会合意のための具体的な努力をいっさいしてきていない。

（5）その一方、舛添都知事は

昨年以來安倍政権による憲法違反の「集団的自衛権行使容認」を事実上支持し、さらに憲法改悪姿勢を露骨にしめすなど、「東京都平和祈念館（仮称）」建設の合意に背く許しがたい都政を続けてきています。

これらは、憲法遵守義務を放棄するとともに、1995年3月10日の東京都平和の日の記念式典で採択した「東京都民平和アピール」の趣旨に真っ向から反する許しがたい言動です。

◆「東京都平和祈念館（仮称）」建設を実現していくためにこうしたなかで今日「東京都平和祈念館（仮称）」を実現していくためには何とんでも圧倒的な世論の昂揚と都政・都議会の現状を変えていくことです。参院選で「戦争法」廃止、立憲主義回復などをかかげて「市民連合」と野党共闘が発展しつつあります。

このことから考えても、①「戦争法」廃止をめざすたたかいと結びあいながら「東京都平和祈念館（仮称）」建設の署名運動をさらに発展させていくこと、②また今舛添都知事が公私

混同都政をすすめてきたことに対して、徹底的な究明と辞任の要求をつよめ、都政を変えていくこと。

③さらに2017年（来年）7月におこなわれる都議選で「東京都平和祈念館（仮称）」建設に反対する勢力を少数派に追い込み、建設賛成議員を大幅に進出させることが求められます。④また今年夏には参院議員選挙がおこなわれます。

この選挙は「戦争法」廃止、集団的自衛権容認閣議決定撤回、立憲主義回復のためにきわめて重要なたたかいです。

「東京都平和祈念館（仮称）」を建設して「戦争はゴメンだ」の機運を将来にわたって若者の間にひろげ、「戦争法」の発動を阻止し、「戦争法」廃止、憲法九条を守る力にしていきたいと思います。

「東京都平和祈念館（仮称）」を建設して、アジア諸国との信頼関係をつよめ、アジアの平和と安全に貢献していきましょう。

「東京都平和祈念館（仮称）」を建設して、公正な社会を築いていきましょう。

東京空襲犠牲者遺族会が総会

東京空襲犠牲者遺族会は、6月4日午後、都内で第16回総会を開催しました。

この総会で星野弘会長は、「私たちの運動は、氏名記録の運動から始まって、国を相手に、民間人の空襲被害者への補償を求める運動に発展してきた。

この訴訟は最高裁まで争われてきて、判決では認められなかったが、立法によって解決する方向が見えてきている。

いま会員一人一人が何をすべきかが問われている」と挨拶し、総会参加者を激励しました。

総会は、空襲被害者援護法実現に向けて、国会での超党派の議連との協力を強めて、その実現のためさらに運動を強めていくことなどを確認しました

2016年5月29日
 <第14回語り継ぐ東京大空襲 清瀬の戦争遺跡を歩くとトーク集会>
 アンケートの回答（抜粋）

【Aさん】70歳代 足立区
 1、清瀬の戦争遺跡を歩くに参加しての感想・意見

大変楽しく、暑くてつかれましたが、よい会でした。スライドもすばらしいと心から思いました。

2、トーク集会の感想・意見

柴田さんだけでなく、本日はじめてお話を伺った方々すべての語りがすばらしかった。

3、全体の企画について

お昼の時間が、もう少し長くとれるとよかったと思いました。何十年か前に叔父の結核の見舞いにきただけでしたので、清瀬の街にもう一度来たいと思っています。

4、「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会の取り組みについて意見、希望

引きつづき微力ですが、運動を続けたいと存じます。

【Cさん】60歳代 所沢市

1、清瀬の戦争遺跡を歩くに参加してのご感想・ご意見

天候にも恵まれ、気持ちのよいウォーキングができました。

2、トーク集会の感想・意見

秋津のB29の墜落事件、所沢の戦争展でも何回か取りあげています。

4、「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会の取り組みについて

いつも会報をお送りしてもらって感謝しています。

【Dさん】60歳代東村山市

1、清瀬の戦争遺跡を歩くに参加しての感想・意見など

B29や爆弾がどこに落ちたのか。東京大空襲の被災者

がトラックで清瀬病院に送り込まれ、33体もの方の無縁仏をリヤカーで圓福寺に運んで埋葬したこと、B29の爆撃で多くの方が清瀬で爆死したことなど、初めて知ることが多くありました。清瀬病院や中央公園にあったプール、圓福寺は何度も行った所です。とくに圓福寺は今年の2月頃まで家内がサキ織りをしていたところでした。

2、トーク集会の感想・意見

定先生のコツコツ調べたお話が胸にしみました。前沢に陸軍の通信隊の訓練所があったことを初めて知りました。

4、「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会の取り組みについて意見、希望

ぜひ、祈念館を建ててもらいたい。平和のためには必要です。

【Eさん】

1、清瀬の戦争遺跡を歩くに参加しての感想・意見など

清瀬に居ながら参加して、初めて知ったことがたくさんありました。今日は本当に良かった。

4、「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会の取り組みについて意見、希望

「平和祈念館」建設をすすめる会の取り組みをすすめる皆さんの活動を知り、今の情勢との関連で勉強になりました。

【Fさん】70歳代 所沢市

3、全体の企画について

ご近所の清瀬ですが始めてきました。沢山のことを学び、本当によかったと思っています。清瀬の方とお友だちになれ、うれしかったです。

4、「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会の取り組みについて意見、希望

上記の建設をすすめる意味

がよくわかっていませんでしたので。よい学習の機会を与えていただき、よかったと思っています。

【Gさん】70歳代 佐倉市
 1、清瀬の戦争遺跡を歩くに参加しての感想・意見など

清瀬のことがわかってよかったです。これだけの歴史をよく掘り進めていったな〜と感動しました。

4、「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会の取り組みについて（ご意見

平和遺族会として取りくんでいます。

ぜひ祈念館建設をのぞみます。

5、その他

祖父母は空襲で（千駄ヶ谷）、父はビルマで、母は自殺で、私は戦争孤児です。

戦争はぜったい反対する。

過去を知り、平和を作りたいと思います。

【Hさん】60歳代 清瀬市
 4、「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会の取り組みについて

ぜひ建てるべきです。

【Iさん】60歳代

1、清瀬の戦争遺跡を歩くに参加してのご感想・ご意見

圓福寺での森原さん、平和観音像についての小俣さんに直接お話を聞くことができて、よかったです。事前の準備、連絡、ご苦労さまでした。

2、トーク集会の感想・意見
 清瀬市平和祈念展等実行委員会の活動、DVDなど予算が少ない中で、すごくがんばっていただけることに感心しました。実行委員会の資料「清瀬と戦争」版を重ねて、より充実していますね。

東京大空襲から 71年の各地の集会



横網町公園で宣伝・署名行動（写真上）

「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会は、「東京都平和の日」の3月10日（木）、東京都慰霊堂のある両国の都立横網町公園で、宣伝・署名行動を行いました。

朝の9時半から11時半の2時間の行動で、6人の参加でしたが「東京都平和祈念館（仮称）」建設を求める署名114人、リーフレット1000枚を配布しました。

東京都慰霊堂にはかつての戦争の中で東京空襲のために犠牲になった無縁仏の遺骨10万4500体が納骨されています。

毎年「東京都平和の日」と9月1日にだけ、納骨室の鉄扉が開くことから、空襲で親族などを亡くした人々が故人を偲んで来所します。

「お疲れさまでした。ピラを

どうぞ、署名をお願いします」と声をかけると、「空襲で私以外の親・兄弟が全滅しました」「父親の妹の家の家族4人が全滅でした」「戦争は絶対にしないで欲しい」など対話がつづき、その間しばしリーフレット配布や署名の手を休めざるを得なくなるほどでした。

カンパ1000円が寄せられました。（柴田桂馬 記）

東京大空襲を語り継ぐつどい ～東京大空襲・戦災資料センター開館14周年～

3月6日（日）にティアラこうとうで、「東京大空襲を語り継ぐつどい」が行われ、330名が参加しました。

プログラムは、きたがわてつさんのオープニングコンサート、戦災体験者の報告、センターのこの1年、証言映像作品の上映、

センターで学ぶ子どもたち、米田佐代子さんの講演でした。

憲法の精神を高らかに歌う

オープニングコンサートでは、憲法公布70年にあたって、「二十五条」「日本国憲法前文」などを中心に、きたがわてつさんの平和への強い思いを、高らかに歌ってくれました。改めて、日本国憲法の精神の崇高さを再認識できるような、すばらしい歌声でした。

6歳の体験が今でもトラウマに

「東京大空襲を語り継ぐ一体験を語る一『3月10日は6歳の誕生日だった』」では、6歳で東京大空襲を体験した西尾静子さんのお話を聞きました。当時深川に住んでいた西尾さんは、その夜、高校の地下室に逃げたという体験を語ってくれました。堅く扉を閉めた地下室に煙が入り込んできて、幼かった西尾さんは、意識が朦朧としてきたと言います。外は、火の海になっていたと思われる状況で、多くの人が「開けろ」と叫んで地下室の扉を叩くけれど、とうとう開けなかったということです。地下室に逃げた人たちは、扉を開けたら、多くの方がなだれ込むだけでなく、火が地下室に広がって助かる人も助からなくなるという苦渋の決断だったということです。やがて声は聞こえなくなり、扉を開けようとすると、多くの方が亡くなっていたために扉は開かず、やっと外に出て西尾さんはお母さんととも

に逃げたのですが、その後見た光景の凄まじさは、トラウマとなっていてずっと西尾さんを苦しめ続けました。

センターの維持・発展のために

「センターのこの1年」は、映像と豊富なデータで説明され、センターの果たしている役割の大きさが伝わりました。訪問者数の推移等とともに、維持会員数の推移がグラフで示され、今年の維持会員が前年よりも減っていることが示されました。子どもたちに戦争の悲惨さと平和の大切さを伝えるために、今後ますますセンターの維持発展が必要となります。そのためには、維持会員を増やすことが大切だと感じました。

被災当時と今を重ねて

「証言映像作品の上映」は、船渡和代さんへのインタビューを映像化したものを流したのですが、証言者が高齢化する中で、証言映像を残すことは、貴重なとりくみだと思います。今回見た映像は、船渡さんが証言した当時の町の様子と、今の映像を重ねるようになっていて、今のこの場所で、こんなことが起こったのだということが伝わりやすくなっていたため、証言が身近に感じられて良いと思いました。

「センターで学ぶ子どもたち」では、3人の小学校6年生がセンターを見学した感想を話し、戦争は絶対にしてはならないと、しっかりと発表

しました。

豊かな想像力で被災者の声を!

らいてうの家館長の米田佐代子さんの講演は、「想像力としての戦争体験—いま、『声なきよびかけ』にこたえる—」という演題でした。米田さんは、長男を16歳で海軍飛行予科練習生として死なせてしまったことを、生涯悔いていたお母さんの思いを語りながら、直接戦争体験をしていない世代が、どのように戦争体験を語り継いでいくのかということと、戦争責任を私たちがどうやって背負っていくのかという2点を掘り下げていきました。戦争被害者は多くを語らないで来たが、被害体験を語りつくしたあとに、初めて他者の怒りを理解することができ、加害のことがわかるのだと述べました。話すことができなかったことを話し、自分の体験や思いが他者に受け入れられたことで、自分自身の価値を認めることができる。被害体験を話すことは、自己の尊厳の回復につながるというのです。

こうした体験を、豊かに想像力を働かせて理解することが、「おぼえていてくれ」と死者が言うことに応えることになること、米田さんはしめくりました。・米田ひさ遺歌集より「戦い

に/失った子への痛苦の思い
/青春の入口で逝かしめた罪

手を取り合ってもう一歩前へ

最後に、早乙女勝元さんが、今、日本国憲法、平和憲法ががけつぷちに立たされている、私たちは平和を守るために、一歩前へ進みましょう。

さらに、隣の誰かと手をつないで、もう一歩前に出ましようと呼びかけました。

(大山圭湖 記)

時忘れじのつどい

【写真下】海老名香葉子さんの求めにこたえて、平和を訴えるちば・てつやさん



【写真下】台東初音幼稚園の子どもたち



3月9日(水)午前、上野公園でエッセイストの海老名香葉子さん発願による「時忘

れじの集い」が開催されました。当日は雨模様でしたが、上野駅の北方にある輪王殿脇に建立されている「哀しみの東京大空襲碑」前で、午前10時から「供養式」、11時半過ぎから上野公園・清水観音堂横の平和の母子像前で「記念式典」が行われました。

発願者の海老名香葉子さんは、東京大空襲で家族を失い孤児になって、哀しみのどん底に突き落とされ、苦労を重ねながら、失った家族の分も生き続け、戦争の惨禍を語り続けていくとの思いを涙を流しながら語りました。

服部征夫台東区長も「母子像の前に立つと多くの子どもたちや家族が戦争の悲劇を2度と繰り返してはならない」「大空襲の惨劇を決して風化させることなく、語り継いでいかなければなりません」と挨拶しました。また、母子像前の記念式典に参加していた漫画家のちばてつやさんは、海老名香葉子さんの求めに応じてつぎのような挨拶をしました。

「私は大空襲のときには中国にいました。終戦の20年8月15日から21年にかけて、24万人が寒さと飢えと絶望にさらされて24万人が亡くなっていったとされている。東京大空襲ではたったの2時間で10万人が亡くなった。思い出すと胸が痛む。戦争がいかに残酷なものか、再び起こしてはならない」と呼びかけました。

その後、記念式典会場からは、泰葉さん、台東初音幼稚園の皆さん、根岸小学校のみなさん、忍岡中学校の皆さん、そしてア

ジア各国の子どもさんたちによる平和の歌声が響き渡りました。

（柴田桂馬 記）

東京大空襲資料展に 5700人が来場 追悼集会で台東区教育 委員長も挨拶

3月10日（木）～10日（日）に、「被災71周年・東京大空襲資料展」が、東京大空襲犠牲者追悼・記念資料展実行委員会主催、台東区共催、台東区教育委員会後援で浅草公会堂



1階ギャラリーで開催されました。会期中の4日間は、天候に恵まれず雨模様の寒い日が続き来場者の出足が悪いなか、4日間の総入場者数は5,783人でした。

今年の特別企画展示は「土井豊画伯原画展」でした。土井さんは、1945年3月の東京の大空襲を体験し、焼夷弾の直撃を受け仰向けに倒れていた人や大八車を曳いたまま息絶えた人を目撃し、その記憶を留めようと空襲被災の絵を描かれました。今回は、その中から5点にしほ

り展示しましたが、このコーナーは多くの人を引き付けました。家族や保護者に付き添われた子ども達や、先生に引率された小学生も見受けられ、子どもたちは焼夷弾解説パネルや石川光陽さん撮影の写真などの前で、実行委員スタッフの説明を熱心に聴いていました。また実行委員会が集めた空襲関連の図書に熱心に見入り、メモを取る来場者もいました。観光に来て偶然この資料展を知り入場された人も多く、その中には数十名の外国人もいて、実行委員会作成の『英文リーフ』を見ながら熱心に見学していました。

今年の学童疎開コーナーには、会津若松・東山温泉に残る当時の疎開児童の名簿を調査に行った実行委員会の報告パネルも

展示し、疎開体験者の関心を呼びました。ビデオ観賞・語り部



コーナーは毎回人で溢れ、熱心に耳を傾けていました。談話コーナーは、お茶を飲みながら一休みする人達で常時満席となり、交流の場となっていました。

5階の集会室で3日間の午後行われたイベント企画はどれも大勢の参加者で大好評でした。

11日（金）は「戦争から平和へ——アコーディオンで歌おう」（アコーディオン奏者／小山龍雄さん）を、12日（土）は「浅草 de トーク vol.5 「下町の暮らしと戦争 ひとの記憶 まちの記憶——ある家族の映像の記録から」（企画／和・ピースリング）を、13日（日）は恒例の「平和寄席」を開催しました。

実行委員会のガイドが案内す



る「浅草戦跡めぐり」は毎日行われ好評でしたが、小雨と寒さのせいで参加者は例年より少なめでした。

会期初日の3月10日（木）午後1時から、隅田公園言問橋際の東京大空襲犠牲者追悼碑前で、「追悼集会」を開催しました。東京土建練馬支部合唱団・コスモスの皆さんの献歌で開会し、川杉元延実行委員長が主催者を代表してあいさつし、29回目を迎えた資料展と追悼集会の経緯を話し「戦争被害の事実を風化させず後世に伝えていき、憲法9条を守り輝かせることが戦争犠牲者への追悼となります」と述べました。

垣内恵美子台東区教育委員長は、東京大空襲被災70年の昨年、台東区が発行した『台東区戦争体験記録』と写真集『台東原風景』を紹介され、「戦争の

悲惨さを忘れないよう次世代を担う子どもたちに伝えていく」とあいさつされました。

被災証言者の露木直治さん（神奈川県・湯河原町在住）は、3月10日未明の言問橋周辺で自ら体験した悲惨な光景を話し、自分たち家族が必死に這いつくばって逃げた体験を話されました。山口逸郎さん（杉並区在住）は、本所区の建物疎開道路のすぐ近くに自宅があったので、焼

け残された唯一の場所で助かったが、焼け野原に沢山の死体を見たことなどを話されました。

最後に参加者は戦争犠牲者に黙祷をささげ、碑前に献花して流れ解散しました。北海道、岩手県をはじめ遠方から参加された人もいて参加者は120名でした。

（東京大空襲犠牲者追悼・記念資料展実行委員会）

「第4回新宿・平和のための戦争展」

750人が来場して平和と戦争を学ぶ

新宿区が「平和都市宣言」をして、30年がたちました。「第4回新宿・平和のための戦争展」は「祝！新宿平和都市宣言30周年 平和大すき戦争キライ！」をテーマに2016年3月19～21日、新宿文化センター展示ホールで行われ、のべ750名の参加者が訪れました。

展示は公募の平和川柳をはじめ、「一日本兵が撮った日中戦争-村瀬守保写真展」「世界ヒバクシャ展」のパネル、実物を見て触れることのできる檜山ミュージアム（精細なB29やオスプレイの模型、墨塗り教科書や焼夷弾、38式歩兵銃の実物、戦地で巻かれた伝単（ピラ）、空襲警報がなる防空壕、当時の新聞など）が展示されました。映画は反戦川柳作家「鶴彬」、「はだしのゲン」、「アンネの日記」が上映されました。

講演は、中島幼八氏の残留孤児としての満州生活の体験談、女優の八代菜名子さんの朗読「6人の男たち」（絵本）と大久保佐和子弁護士による憲法講座、アニメ映画監督高畑勲氏の「いま伝えたいこと」と題した講演、世界ヒバクシャ展の森下美歩さんの世界の核をめぐる危



険のお話など。

アジアの国との文化交流企画は、東京朝鮮高校の舞踊・合唱・楽器演奏、自由の森学園中・高校の中国舞踊が披露され、戦争と平和を考える充実した3日間の展示・企画となりました。

10代の女性から、「実物に触れる機会はないので、すごく貴重な機会でした。戦争で亡くなった一人一人の人生がいろいろな形であったことを実感し、戦争は絶対にダメだと強く思いました。戦争を知らない私たちが、戦争のことを知り、考え、発信していく必要があると感じました」との感想が寄せられています。

この企画は、第1回より区と教育委員会の後援を得て、区内の小・中学生の各家庭や図書館、区民センターにチラシを配布し宣伝をしています。戦争を知らない若い親子や学生たちに参加をよびかけ、平和な世界のために企画を発展させていきたいと思えます。

（新宿・平和のための戦争展実行委員会 赤川理恵）

第22回 4・13 根津山小さな追悼会

4月13日（水）午後、豊島区南池袋公園の一角で、「4・13根津山小さな追悼会実行委員会」主催、豊島区・豊島区町

会連合会後援の集いが開催されました。

1945年4月13日夜、豊島区一帯は、アメリカのB29爆撃機による空襲で死者778人、負傷者2,523人、焼失家屋34,000戸にのぼる被害を受け、罹災者の数は161,661人と、実に当時の人口の約7割に及んだといわれています。

戦後50年の1995年に、この周辺の町会の有志などが中心になって、これら犠牲者の冥福とこの悲惨な事実を末永く後世に伝え、再び戦争による悲劇を繰り返させないために、晴れた日も、雨の日も、この集いを開催するようになり、今年で22

回目になります。

今年はとくに、この公園のリニューアルが終わった直後の開催でした。

実行委員会代表の小田光野さんや宗教者の挨拶、豊島朗読の会「ききみみずく」の会の空襲体験記の朗読などが行われました。

（柴田桂馬 記）



都内各地の夏の平和展

中央区

名称 平和を願う 中央区民の戦争展

期日 8月27日(土) 13時~20時半

8月28日(日) 10時~16時

会場 月島社会教育会館 4階ホール

会場への交通 地下鉄有楽町線・大江戸線 月島駅下車 徒歩約5分

入場料 無料

主催 平和を願う中央区民の戦争展実行委員会

連絡先 090・4077・2282 福田

展示 特別展示:

『一日本兵が撮った日中戦争 村瀬守康写真展』

他、沖縄戦と基地問題、本当に変えちゃっていいの? 日本国憲法、わが街 月島の歴史、月島を愛した反戦自由律俳人 橋本夢道、軍隊を捨てた国 コスタリカ、戦争法は廃止、首都圏の基地強化の実態、他

講演・他

8月27日(土)

13時半~

合唱・ギター演奏

大熊 啓さん

14時~15時

お話し

「満蒙開拓民からの遺言」

小川惣兵さん

18時半~20時半

講演

「日本国憲法が危ない」

川上詩朗さん(弁護士)

(日弁連憲法問題対策

本部事務局長)

8月28日(日)

11時~11時45分

DVD上映「沖縄返還への軌跡」

13時~15時

講演「誤解だらけの沖縄基地問題」

宮城栄作さん

(沖縄タイムス東京支社報道部長)

足立区

名称 第29回足立・平和のための戦争展

期日 8月19日(金)~21日(日) 10時~18時

(21日は17時終了)

会場 Lソフィア

会場への交通

東武線 梅島駅下車徒歩 約5分

入場料 無料

主催 足立平和展実行委員会

後援 東京都教職員組合

足立支部

連絡先 03-3849-0297

展示 日中戦争、アジア太平洋戦争をふりかえり学ぶ

足立区と周辺の戦時遺跡資料の紹介

安保法制=戦争法と憲法の問題

平和美術文芸コーナー

足立区民・市民による創作作品の発表展示

イベント・1

19日(金)

13時10分~16時半

平和映画を見る集い(「猫は生きている」「戦争と青春」)

イベント・2

20日(土)

13時半~16時半

平和の講演とうたごえの集い(原水爆禁止世界大会の報告、他)

平和コンサート

イベント・3

21日(日)

13時半~16時

戦争証言を聞く集い

江戸川区

名称「第16回平和のための戦争展」

一憲法施行70年—9条輝く日本を!

日時—8月27日(土)

10時から19時

8月28日(日)

10時から17時

会場—江戸川タワーホール船堀 展示室1(1F)

主催団体—「第16回平和のための戦争展」実行委員会

(被爆者の会も参加)

後援団体—区に申し入れているが、後援にはなっていない

連絡先—江戸川教育会館

(03-3674-2505)

【主な内容】

展示—平和のパッチワーク、ちぎり絵、絵手紙、短歌、新聞ちぎり絵

原爆ドーム周辺の71年

(パネル)、ファットマン、

リトルボーイ（1/2模型）
治安維持法下での闘い
日中戦争、危険な自民党憲
法草案、原爆と人間—パネ
ル、沖縄戦—パネル
平和の絵本の展示
戦争当時の暮らし—物品の
展示
舞台—平和の歌、朗読
DVD、ビデオ
被爆体験のお話し
講演—8月27日（土）
2時から3時半
（資料代500円を徴収）
「9条輝く日本を」
講師—宮崎礼二氏
（明海大学准教授）

渋谷区

名称 第27回「渋谷原爆写真
展」～平和のための戦争資
料展～
日時 8月6日（土）
10時～20時
8月7日（日）
10時～16時20分
会場 渋谷区立上原社会教育会
館
入場料 無料
主催 「渋谷原爆写真展」
実行委員会
連絡先 東京土建渋谷支部
03-6304-2315
展示 ヒロシマ・ナガサキ「原
爆と人間」、被爆・戦後7
1年の日本、複製版「戦時
中の実物資料」、米軍の無
差別爆撃・表参道周辺の空
襲被害、山の手大空襲「写
真で見る渋谷の被害」、い
わさき・ちひろ「平和パネ
ル」、ビキニ水爆実験と第

五福竜丸、写真で見る「渋
谷の学童疎開」
平和のつどい
6日（土）11時～
ドキュメンタリ映画
「一歩でも二歩でも」
6日（土）14時～
DVD「あやまれ つぐな
え なくせ原発・放射能汚
染」
～いわき市民と避難民のた
たかい～
7日（日）13時～
*被爆者の証言
江戸川区在住奥田豊治さん
*記念講演
「オバマ大統領は核兵器を
なくす気があるのか？」
元日本テレビプロデューサー
仲築間卓蔵さん

大田区

名称 第37回大田平和のため
の戦争資料展
期日 8月19日（金）
13時半～18時
8月20日（土）
9時半～18時
8月21日（日）
9時半～16時半
会場 大田区民プラザ
交通 東急多摩川線下丸子下車
約1分
入場料 無料
主催 大田平和のための戦争資
料展実行委員会
連絡先 080-5007-263
1
展示 これが実物だ～戦時の実
物に触れて、感じよう考え
よう
満蒙開拓団から今の私たち
への問いかけ～大田区の訓

練所から満州へ
「原爆と人間」
子どもの教育は大田区では
憲法を知ろう、考えよう～
緊急事態条項とは～
九条の会はこんな会です
企画
19日（金）
14時 「代用品」に見る
戦時下の暮らし
植井 正さん
16時 紙芝居「お母ちゃ
ん、お母ちゃ～んむかえに
来て」 野田寿子さん
20日（土）
10時 紙芝居「太平〇捕
り」 笠原あき子さん
13時 朗読・被爆者の詩
など
14時半～被爆証言
21日（日）
10時 紙芝居「もうーい
や わたしが見た東京大
空襲」 天野陽子さん
13時 少年の目で見た戦
争をする日本とは…
小池 仁さん
14時半 紙芝居
「フクちゃんの貯金箱」
他 中野登美さん

豊島区

名称 豊島区平和のための戦争
展
期日 10月21日（金）
10月22日（土）
会場 豊島区雑司ヶ谷地域文化
創造館
主催 豊島区平和のための戦争
展実行委員会



北区

名称 第22回平和のための戦争展2016
 開催期日 8月20日(土) 13時～19時
 8月21日(日) 9時半～17時
 会場 北とぴあ地下1階展示室 東京土建北支部
 入場料 無料
 主催 平和のための北区の戦争展実行委員会

品川区

名称 2016年第33回 しがわ平和のための戦争展
 開催期日 8月11日(木)～14日(日) 10時～19時(14日は16時まで)
 会場 品川区民ギャラリー (イトーヨーカドー 大井町店8階)
 交通 JR京浜東北線大井町駅 下車徒歩約2分
 主催 しがわ平和のための戦争展実行委員会

連絡先 扇谷道子 (・/FAX03-3727-8382) 西條明子 (・03-5742-7563、FAX03-3775-7883)

展示
 ＊子ども、地域と戦争
 ＊日本国憲法と安保法制
 ＊経済の軍事化
 ＊オキナワ・フクシマ
 ＊署で平和の心を
 催し
 8月11日(木)13時30分～ 城南空襲映像と証言 紙芝居上演

8月12日(金)18時半～ お話し(交渉中) 金子 勝さん (立正大学名誉教授) (資料代 300円)

8月13日(土) 13時～ コカリナ演奏 13時25分～ お話し 満蒙開拓団からの引き上げ 飯白 栄助さん 14時～ お話し 福島被災5年を考える 伊藤 千恵さん

8月14日(日) 13時～ 沖縄を考える 13時40分～ 沖縄三線演奏 照屋三線クラブ

立川市

名称 ‘16平和をめざす戦争展 in 立川(第14回)
 開催期日 9月9日(金)～11日(日)
 会場 立川市民会館
 主催 平和を考える市民の会 「平和をめざす戦争展 in 立川」実行委員会
 連絡先 電話・FAX 龍田 537-6423 加藤 537-2217 糸永 534-2400

検討されている展示
 自民党憲法(改正)案とは一改憲策動、沖縄の米軍基地・辺野古基地建設、報道写真に見る中東戦争の実態、海外への出撃の司令部を担う横田基地、戦争は経済に何をもたらしたか、子どもたちと戦争、絵本読み語り、広島・長崎の原爆被災の写真、若者平和の

コーナー、軍隊を持たない国……コスタリカ、治安維持法と戦争、戦争する国づくりと教育、市民の平和作品展(絵手紙、写真、署、俳句など)

記念講演
 9月10日(土)16時～18時半 サブホール(B1F) 講師 川田忠明さん 日本平和委員会常任理事 (仮題)安保法制・戦争法で何が始まっているのか!

小平市

名称 2016年「平和のための戦争展・小平」
 開催期日 9月2日(金)～4日(日) 10時～17時
 会場 小平市中央公民館 ギャラリー
 入場料 無料
 主催 2016「平和のための戦争展・小平」実行委員会
 後援 小平市・小平市教育会館
 連絡先 携帯 090-7948-7599(西村)
 主な内容
 1)小平と戦争
 2)戦争に反対した人々
 3)日本国憲法を考える
 4)基地の現状

あきる野市

名称 新・原爆と人間展
 開催期日 8月22日(月)～25日(木)
 会場 あきる野市役所 コミュニティホール
 入場料 無料
 主催 あきる野原水協
 後援 あきる野市教育委員会

東村山市

名称：2016年核兵器廃絶と
平和展

開催日時：

8月22日（月）～30日（火）

8時30分～17時

会場：東村山市役所

いきいきプラザ1階

入場料：無料

主催団体：東村山市、

核兵器廃絶と

平和展実行委員会

後援団体：東村山市議会、

東村山市教育委員会、

東村山市社会福祉協議会

連絡先：東村山市役所 市民部

市民相談・交流課

電話：042-393-5111

内線2558/2559

主な内容：広島平和記念資料館

所蔵被爆現物資料の展示、

広島・長崎原爆写真展示、

水彩画（戦争体験と戦後の生
活）

平和の絵手紙展示、原爆・

平和関係図書展示、

東村山の非核平和行政につい
て展示、

付帯事業：サロンコンサート

8月26日（金）

12時20分～12時55分

市役所いきいきプラザ喫茶内

平和の集い

「平和学習報告会・平和音楽
祭」 入場無料

8月28日（日）

13時30分～16時

東村山市立中央公民館ホール

平和学習報告会：

中学生広島派遣事業参加者の
報告

平和音楽祭：フルート二重奏、

都立東村山高校コーラス部、

市民合唱団の平和コーラス

◎核兵器廃絶平和展実行委員長：

儀同政一（042-391-8400）

（資料） 東京都民平和アピール

一九四五年三月十日、五十年前の今日、東京は大空襲によって、いたるところ焼け野原と化し、一夜にして十万人のかけがえのない尊い命が失われました。

同じく五十年前、広島と長崎の原子爆弾は、人類がいまだかつて知らなかった悲劇を地上に現出させました。

いかなる哀悼の言葉も意味を失ってしまうほどの非情かつ残酷なもの、それが戦争のもたらすあらゆる惨禍であり災害であります。

そして半世紀がたちました。戦争を知らない人々が、都民の多数を占める時代がきました。東京の姿は一変しました。廃墟だったまちは、活動力にみちた大都市に変貌しました。それは、日本が平和のもとにあったからこそ実現できたものでした。

世界の相互依存関係がかつてないほど緊密になり、互いの協力がますます必要とされる現在、私たちは世界全体の平和なくして、幸せで安全な暮らしを営むことはできません。

いま世界は、激動の中にあつて、大きな歴史の転換の時代を迎えています。民族や宗教の対立などに起因する悲惨な地域紛争、飢餓と貧困、難民と被災者、地球環境の破壊と悪化をはじめ、人々の穏やかで満ち足りた生活をばむ要因が、次から次に生じています。不信と対立を克服し、信頼と協調による新たな国際秩序を模索することは、地球全体にとって緊急な課題であり続けています。国、民族、文化の違いをこえた取り組みが、今ほど求められている時はありません。

平和は、何ものにもまさってすべての基礎をなす条件です。日本国憲法が基本理念とする恒久平

和は、私たちすべての願いであり、人類共通の目標です。

私たちは、軍縮と核兵器の廃絶を機会あることに強く訴え、戦争の惨禍を再び繰り返さないことを誓います。日々の生活において、平和を脅かす問題に、毅然として立ち向かい、忍耐つよく取り組むことを決意します。

一、私たちは、次代を担う子どもたちに、戦争の悲惨さと、それを防止することの大切さを、東京大空襲の体験などとともに語り伝えます。

一、私たちは、共に地上に生きるすべての人の人権を尊重し、差別を排し、思いやりと愛情をもって、誇るに足る地域社会をつくりまします。

一、私たちは、日々のくらしを注意深く見つめ、豊かな水と緑の地球環境を守ります。

一、私たちは、地球社会の一員として、世界の人人類の福祉の向上に努めます。

一、私たちは、過去の歴史をかえりみて、ともに手を携えて平和な世界をつくり、相ついでやって来る新しい世代に引き継いでゆきます。

第五回東京都平和の日記念式典にあたり、私たちは、参加者の総意としてこのアピールを採択し、誓いも新たに平和を心から願う気持ちと決意を、全世界の人々に訴えます。

一九九五年三月十日

（注）この「都民平和アピール」は、東京都が主催した東京都平和の日記念式典で参加したすべての人々が賛成して採択したものです。当時の都議会のすべての会派をはじめ、有識者なども一致して賛成したものです。

夏休みの課題～ 戦争と平和を知るための手だて

黒田 貴子

(1) 戦争を体験された方のお話を聴くために

一昨年、1年生の夏休み課題として「戦争体験者のお話を聴く～あなたも歴史のバトンを引き継ごう!～」を出しました。戦争を体験された世代のお話を伺うということは、平和教育の原点と言えます。数年前から、学校の中には戦争体験者はいなくなり、生徒たちの祖父母のほとんどが戦後生まれとなりました。学校が意識的に伝えない限り、子どもたちに戦争の真実は

伝わらない時代です。

1学期の最後の授業で、私の父の東京大空襲体験（本所で母と二人の妹を失っています。）を語りました。身内の方からお聞きすることが難しい生徒のために、戦災資料センターをはじめ、各地の戦争展、施設を紹介しました。今回、敢えて「戦争を体験された方のお話を聴こう!」という課題を出したのは、今なら、まだ直接の戦争体験を聴く

ことが出来、子どもたちは、まさに「歴史のバトンランナー」なのだ、ということ強く意識してのことです。

(2) 戦争遺跡から学ぶ

昨年の夏休みは、「終戦70年の夏、戦争を知る～あなたも歴史のバトンを引き継ごうII～」として、①昨年に引き続き、体験者のお話を伺う ②戦争遺跡を訪ねる、の2つの課題からどちらに取り組んでも良いとしました。（もちろん、両方に取り組むことも。）戦争遺跡の圧倒的な存在感、原爆ドームの前に立った時、松代大本営地下壕や、沖縄のガマに入った時のことを、生徒の体験も確認しながら語りました。そして、戦争遺跡を訪ねる時に、①その遺跡や関連したことについて学んでからその場に行くこと ②できたら、戦争遺跡の保存運動についても調べることに触れました。

(例) 八王子相即寺のランドセル地蔵、東大和の変電所（多摩の原爆ドーム）、言問橋、地域にもある慰霊碑など。

*いま聴くことの出来る戦争体験には出てこない「加害」について知る

(例) 登戸研究所見学：高校生が、戦時中の子どもたちが明らかにしたこと

各地の戦争展や、施設での催しの紹介

新宿戸山の人骨問題 →



731部隊

＊平和と戦争を考えるテレビ・ラジオ番組の紹介

＊事前に各施設から送って頂いたチラシやパンフレットを希望者に配布しました。

＊調べてきたことは、FAX用紙1枚にまとめることにしました。

（3）見事に受けとめ、学んできた生徒たち

2学期、生徒たちがまとめた新聞を読み、予想をはるかに越えて聞き取り、受けとめてきたことに感動しました。ひととおり目を通した後、出勤日ごとにひとクラスずつ持ち帰り、とにかく読みに読みました。通

勤の車内でも読みました。

100歳を超える大叔母さんから聴いてきた生徒がいました。曾祖父がレイテで戦死し、遺された家族の生活苦の中で妹を栄養失調で亡くしたという祖父が、小学校教員として平和学習に打ち込んできたと綴る作品がありました。

自分たちの学校周辺も山の手空襲で火の海となったことを戦災資料センターで伺ってきた生徒がいました。言問橋の辺りを歩いて取材してきた生とがいました。

父親をシベリア抑留で亡くしたという祖父は、「こういう課題を出して頂かなかつたら、孫に父の体験を伝えることもなかつ

たと思います。大切な機会を与えて下さったことに感謝します。」と書いて下さいました。

どの証言からも伝わってくる「戦争だけは、絶対にしてはいけない」という懸命のメッセージは、保護者を含めた学年全体の大切な財産となりました。生徒たちは、今の状況につなげて「集団的自衛権のことなど、真剣に考えていきたい」という感想を書いていました。

（4）課題を出したことから生まれた交流

戦災資料センター、登戸研究所には、それぞれ十数名が、また各地の戦争展にも連れ立って出かけ「良く来てくれましたね!」と歓迎して頂いたことで、自分たちの取り組みに、いっそう自信を深めることが出来ました。平和を守ろうとしている方たちとの出会いは、生徒たちにとって大切な体験となりました。

生徒たちの作品は、授業で読み合い、文化祭に展示した後、お話を下さった方々、施設、戦争展の主催者の方々にコピーをお送りしました。それに対してのお便りも頂き、生徒たちに読み聞かせたりもしました。

これからも夏休みごとに、生徒たちが平和と戦争を考える課題を出し続けていきたいと考えています。このような取り組みが、多くの学校で行われることを願っています。





平和資料館めぐり ⑪

「慰安婦」の記録と記憶の拠点をめざして
アクティブ・ミュージアム
「女たちの戦争と平和資料館」(wam)

日本軍「慰安婦」制度の被害と加害の証言や資料を集めた日本で唯一の資料館・wamは、エントランスにwamで名前や写真、証言等の公開を承諾した、9カ国155人の被害者の顔写真を掲げ、ここが被害女性一人ひとりに出会える場だとアピールしている。

ここでは1年に1カ国ごとの特別展を開催し、今までに朝鮮半島、東ティモール、中国、フィリピン、沖縄、台湾、インドネ

シアでの被害を取り上げた。毎回、日本と被害国の支援者・研究者たちと協働で資料を集め、パネルを作る。展示の“目玉”は、被害女性の「個人パネル」だ。A1サイズのパネルに、その人の生い立ちから被害体験、戦後の生活と闘いまでを証言と写真でコンパクトにまとめる。彼女の書籍や映像、裁判資料などは、館内のデータベースで探し出せる。加害を証言する元日本兵も同様だ。

wamではその他に、証言集会、セミナー、ビデオ上映会、国連でのロビーイング、国内外の女性の人権や反戦などの連帯活動も行っている。wamが調査・集積してきた資料やパネルは、国内外のメディアや教育界、市民運動、アジア各地の「慰安婦」資料館でも活用されてきた。

日本軍の慰安所は日中戦争の初期から敗戦までの間、アジア全域に設置されたが、報道管制が敷かれて国民には隠され、敗戦直前には関連文書が焼却された。戦争文学や映画、戦記などには「慰安婦」が登場するが、多くは「戦場の売春婦」とされていた。

慰安所の実態と、この性奴隷制が女性への人権侵害で戦争犯罪だと認識されるようになったのは、各国の被害女性が名乗り出て、日本政府に謝罪と賠償を求める裁判を始めた1991年以降だ。国連の人権機関や世界の女性運動の中でも問題視され、日本政府は「慰安婦」調査を行い、日本の責任を認める「河野談話」を発表した。しかし90年代後からは日本の右傾化が強まり、「慰安婦は売春婦」「強制連行はなかった」とするバックラッシュが始まる。中学の教科書が

会員になりませんか？

wamは国や行政から支援を受けず、自立して運営する民衆の資料館です。ぜひ会員になって支援してください！

友の会：3,000円(年) 維持会員：10,000円(年)

会員にはイベント案内などを逐次お知らせします。維持会員は入場無料、各種セミナー割引もあります。

wam

アクティブ・ミュージアム

女たちの戦争と平和資料館
women's active museum on war and peace

新宿区西早稲田2-3-18 AVACOBIL2F 〒169-0051
t 03-3202-4633 f 03-3202-4634
wam@wam-peace.org www.wam-peace.org

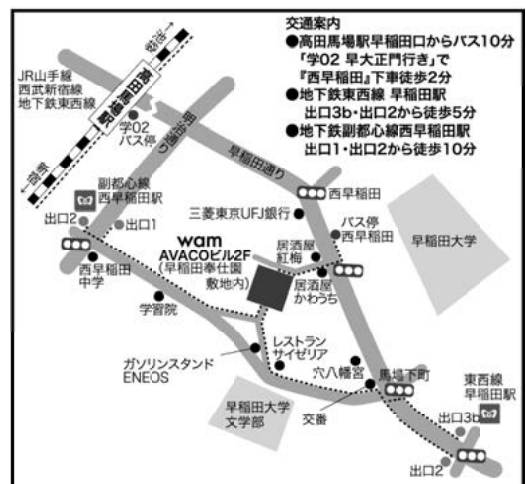
開館時間：水～日：13:00～18:00

休館日：月・火・祝日

※祝日の休館日はお問い合わせください。
※団体の時間外訪問はご相談ください。
※展示入れ替え期間は休館となります。

入館料：18歳以上 500円
18歳未満 300円
小学生以下 無料

※障がいを持った方の付き添いは無料です。





ちに託して亡くなり、その3年後にwamは開館した。

日本政府は自国の負の歴史を認めたがらず、それに便乗する右翼はwamに嫌がらせや攻撃を仕掛けてくるが、それなら日本の市民がその歴史を記録し記憶していくしかない。国際連帯の力で、被害女性が求める日本の謝罪と賠償の実現にも尽力していかなければならない。私たちはこの記憶をめぐる闘いに、何としても勝利しなければならないのである。

ら「慰安婦」が消え、メディアの自粛が目立ち始めた。

こんな中、2000年12月に日本の女性たちの提案で、日本軍性奴隷制を裁く民衆法廷「女

性国際戦犯法廷」が開かれた。

これは世界史に残る快挙となっ

たが、「法廷」の発案者・松井やより氏が2002年、wam建設のために遺産と資料を仲間た

アクティブ・ミュージアム「わたしの戦争と平和資料館」（wam）館長 池田恵理子

特別寄稿

八百霊地蔵尊

どんな思いから八百霊地蔵尊がまつられる様になったのか

江東区森川5丁目 築山 実

一生忘れることの出来ない、昭和20年3月10日の東京大空襲、此の日の空襲は、今までに、昭和19年の秋から始まり、その後何十回か、昼となく又夜となく襲った空襲、それとは又スケールが違い過ぎた。

正に大空襲である。

空襲になるや、いきなり焼夷弾が大量に落下し、一瞬にして猛火が東京の下町全体を広く、四方八方から襲いかかり、その炎の中へと吸い込まれるごとく呑みこまれ、やがて家々が真っ赤になって消えていった。

今までの空襲体験からでは、誰もが想像すら出来なかったことである。その猛火の中で何の罪も無い善良な人々が、逃げ場

を失い、川の中で、道路で、橋の上で、防空壕で、苦しみ、もがき、やがては炭のように真っ黒になって……

私の体験した火焰地獄のまっただ中で、それぞれの学校の地下室で、まさか窒息死するとは思ひもしなかった。これは大きな誤算であり、落とし穴でもあった。

そして10万人もの常識では考えられぬ大多数の尊い命が、たったの一夜の人災とも云える空襲で失われてしまったのである。

私の兄、姉、妹と病弱だった母が、其の後やけどと、一夜にして子ども3人を亡くした深い悲しみから、すっかり体調を崩

し、母までも。

必勝のため、頑張りましょう勝つまではと、日本人誰もが本当に真剣に頑張り、その思いで、極端な物資不足と食糧難と戦いながら、強く頑張り生き抜いて来た、正に大和魂を発揮してきたものの、同じ年の8月15日、ついに敗戦。

戦災を受け助かった人々は、家も、財産も、職業も、また家族をも失い、正に裸一貫、当時私は群馬県に疎開していたが仮住い、落ちついて住む場所も無く、父はその年の12月、急に東京へ戻ると切り出した。私はそれは無謀と思いましたが、それしか打つ手は無かった。

未だ殆どの人が住んでいない

焼跡、仕事も無く、したがって収入も無い、生活も不自由と解りつつ、元の場所である焼跡へと戻った。

やがて出来上がった家は、掘立小屋の焼けトタン張りの家、畳はむしろ、丁度1年ぶりの3月9日、我が家が出来上がり、さすが「バラック」。朝起きると忘れられない、3月と云うのに「フトン」の上は雪だらけ、それでも1年振りの我が家はやっぱり天国。

やがて同じ様な境遇の人が、ポツリ、ポツリと、焼けトタンのバラックを建て、その数も少しずつ増え始めた頃。

当時の高橋5丁目(現森下5丁目)の町会長は島田甚蔵と云う方で、手広く鋳物工場を営み、町会長になる前に自費で町の音楽隊を造り、楽器、制服、先生の指導料まで自費でまかない、その少年団が出征兵士を神社まで送り、武運長久を祈りに何度も行った。私も当時団員の一人だった。

また工場の敷地内に常会場(町会会館)までも自費で造った方だから。

この町会長なら空襲が激しくなり、万一のためにと町会の重要な書類を防空壕へ保管していたとしても当然と考えられる。

空襲の後も疎開せず、奥さんを空襲で亡くし一人になってからも、防空壕に残り、時折相談にくる人の世話をしていた。

此の頃の「バラック」の住人は、空襲で家族を失い、その遺体すら解らず、頑張ると、自分に言い聞かせつつも、失望のどん底を味わっている人ばかり。

或る日、町会長の掛け声で皆

が集まり、高橋5丁目は一軒残らず焼失し、また全滅した家庭も多く、町の殆どの人が誠に残念乍ら亡くなってしまった。

それを調べだし、その霊を供養するのが同じ町に住んで生き残った我々の務めと話を切り出し、全員賛成の下、未だバラックが10数軒の時、3回忌を目標に活動を始めた。

第一に、戦時中で空襲も激しさを増してきた時代、島田町会長が大事に防空壕の中に保管していた何冊かの書類の中に、各家庭の家族構成を明記した書類もあり、それらを主体として皆で調べて行き、亡くなった方々を割り出していったのではないかと、とはいっても町会全体の子どもから、赤ちゃんまで、亡くなった方々を全員探し出すのは至難の業、それを協力し合い、ついに成しとげたとき、犠牲者が想像をはるかに越え、誰もが驚いた事だろう。

父もその折協力者の一人だったので、私も皆さんのご苦勞を遠くで眺めていたのを、なつかしく思い出す。

調べ終わると町会の庶務徳田恭介さんに頼み過去帳に記入してもらい、それを表装し、第1巻が出来上がり。

猿江橋のたもとにお堂を建立し、そこへ納め、犠牲者が800名に近いので、八百霊地蔵と命名し、昭和22年3月10日、未だ少なかった町内の人々が参加し、坊さんにもお願いして3回忌の法要が営まれた。

それ以降、代々の町会長が代表者となり、巻物を預かり、八百霊地蔵尊を守り続けてきた。

その間、毎年3月10日には

必ず年会供養し、最近では3月10日の前の日曜日に行っている。

また、今までの年会の折々に、お堂を改築したり、巻物(過去帳)の中に、多少の誤りが解り、また新たに判明したお名前も加え、昭和32年、13回忌の折に、第2巻を作成し773名と訂正。

その後、由来記碑を建立したり、幟旗を造ったり。

賽銭箱の中に有る賽銭が何度か盗まれたので、当時町会長だった、鉄工所を営んでいた沼田さんが手造りで新しい賽銭箱を造ってくれ、現在に至っている。

普段は、笑睦会(老人会)の皆さんが交替で掃除と、お花の交換や、ローソク、線香と、年間を通し、本当に有難いことに、気を使って下さっています。

これに対しては、町会の皆様が心から感謝しています。

話は変わりますが、先の東京大空襲に於いて、10万人という尊い方々が犠牲となられ、その中で一つの町会としていち早く、町会に住んでおられ亡くなった方々を探し出し、70年もの長き年月変わる事なく、供養し、ご冥福を祈って守り続けている町会は、私は外にないと思っております。

これは町の誇りではないでしょうか。

今後共、八百霊地蔵尊を町会として守り続け、戦争の無い、明るく平和な国で有ります様頑張ってくださいませんか。